

自駒妃登美の
なでしこ
歴史物語
18

日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

しらこまひとみ
博多の歴女 白駒妃登美

明治初期、日本初の女子留学生として、海外での生活を終えた大山捨松。環境に適応する力に長けた彼女も、実は周囲の環境に愚痴をこぼした時期があります。それは、アメリカ留学を終え、満二十二歳で祖国の土を踏んだ時です。いよいよ近代国家の建設に貢献できると意気込んでいた捨松でしたが、当時の日本は男尊女卑の風潮が色濃く、高等教育を受けた彼女に、ふさわしい仕事を与えることができませんでした。それどころか、当時は十代で結婚する女性が圧倒的多数を占める中、二十歳を過ぎた捨松は、すでに婚期を逃したという目で世間から見られ、想像以上に肩身の狭い思いをしていたのです。このころ捨松は、アメリカの親友であるアリス・ペーコンに対し、「二十歳を過ぎた

❀ 失意の帰国

——日本初の女子留学生・大山捨松②

人を支えることで輝く

ばかりの女性が売れ残りだなんて、想像できる？ 母はもう縁談も来ないでしょうなんて言ってるの」と手紙を送っています。当時、明治政府の中心人物の一人だった黒田清隆は、女性も男性と肩を並べて活躍できる社会を築きたいと、新しい時代に希望を託し、捨松らを留学させたのですが、人々の意識や社会が追いつくには、なお時間を要したということでしょう。

❀ 閣下のお人柄を知った上で……

しかし、そんな失意の日々を送る捨松の前に、彼女の人生を大きく変える男性が現れます。彼の名は大山巖。薩摩藩出身で後の元帥、陸軍大将です。巖は知人の結婚披露宴で捨松に一目惚れし、猛アタックを開始したのです。

大山捨松 会津藩家老の山川家に生まれる。満11歳で初の女子留学生として渡米し、満22歳で帰国。イスに留学経験のある大山巖と結婚し、洋風夫妻と呼ばれる。後年は各種慈善活動に尽力した。

【イメージイラスト】アオジマイコ